

耐震診断 「木造住宅の耐震診断と補強方法」対応

一般診断法

一般診断 (在来軸組構法)

壁表示切替: 通常 / 壁耐力

筋かい、壁下地材種類: 明確

判定: 一般診断 / 精密アドバイス / 地震被害想定 / 印刷

階	方向	保持耐力 Q_d (kN)	必要耐力 Q_r (kN)	評点	判定
2	X	66.67	1.00	0.70	△ 倒壊する可能性がある
	Y	90.59	1.00	0.92	○ 一定倒壊しない
1	X	123.59	1.00	0.92	○ 一定倒壊しない
	Y	148.95	1.00	1.09	○ 一定倒壊しない

総合評価: 0.92 (△ 倒壊する可能性がある)

劣化度による低減係数 D: 0.70

精密診断法

精密診断 (在来軸組構法)

壁表示切替: 通常 / 壁耐力

筋かい、壁下地材種類: 明確

判定: 一般診断 / 精密アドバイス / 地震被害想定 / 印刷

項目	選択	判定
①地盤の弱体化	田畑の造成地で、造成後5年以内である。川川、池沼、池などの埋立地である。	問題あり
②基礎の腐蝕・亀裂等	非常に悪い状態、その他の基礎。	玉石などが移動したり、不陸が生じる。
③水平構面(床や屋根)の損傷	2階の直下2階がない外周壁が2階以上ある。ただし、枠組壁工法の場合を除く。	問題あり
④柱の折損	なし	-
⑤構架材接合部の外れ	12個以上の大きな部層がある。	問題あり
⑥壁紙剥がれ	脱落の可能性がある	問題あり

階	方向	保持耐力 Q_d (kN)	必要耐力 Q_r (kN)	上部構造評点 P_d/Q_r	判定
2	X	69.90	43.51	1.60	◎ 倒壊しない
2	Y	67.21	43.51	1.54	◎ 倒壊しない
1	X	92.00	89.17	1.03	○ 一定倒壊しない
1	Y	103.08	89.17	1.15	○ 一定倒壊しない

総合評価: 1.03 (○ 一定倒壊しない)

『一般診断法』は耐震補強等の必要性の判定を目的としています。建物の持つ耐力（保有耐力）を「設計上の耐力」「壁のバランス（四分割法）」「劣化度（建物全体）」の3要素から求めます。評価は、各階各方向ごとに「倒壊しない」から「倒壊する可能性が高い」の4段階で表されます。診断結果は、グラフ表示や、地震被害想定3次元CG表示など視覚的に表現されます。

『精密診断法』は、より詳細な情報に基づき、耐震補強等の必要性の最終的な判定を目的としています。また、補強後の診断としても『精密診断法』を行うこととされています。壁ごとの耐力の詳細設定、部位ごとの「劣化度」「接合部仕様」等を入力します。煩雑な入力作業も自動機能や一括入力機能を使えば簡単です。評価は、一般診断法と同じく各階各方向ごとに4段階で表されます。